

「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（中学校）

【宮代町教育委員会】

【1年時の現状と分析】

宮代町では各学年、学力調査を実施しています。中学1年生で「標準学力調査」、2年生では埼玉県実施の「小・中学校学習状況調査」、3年生では「全国学力学習状況調査」を希望して実施しています。特に1年生実施の「標準学力調査」は、小学校での既習状態がよくわかり、今後の教育活動や教育計画の作成に活用できます。昨年度は国語・数学・理科・社会の4教科(今年度からは国語・数学の2教科)のテストを実施しています。資料1を見ると、他の3教科が「町の正答率」に対してほとんどの項目で上回っているのに対し、国語の項目ではほとんどの項目で下回っていました。

特に「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の項目は「町の正答率」だけでなく、「期待正答率」をも下回り、大きな課題と考えました。

更に「書く能力」は「活用」の「表現力」とも関連して「町正答率」を下回り、これも大きな課題と考えました。そこで、「話す・聞く」「書く」「言語事項」の3点を中心に国語授業の改善を図ることにしました。

昨年度までは、「国語・教科の重点」という名目で、「漢字小テスト」「音読」「コラム学習」「聞き取りテスト」「硬筆」の5点について毎時間、授業の最初で取り組みました。内容は下表参照。

【資料1】23年度標準学力調査結果(1年生国語23年4月25日実施)

	計	国語への 関心・意 欲・態度	話す・聞 く 能力	書く能力	読む能力	言語につ いての知 識・理解 ・技能
期待正答率	71.2	60.0	72.5	61.8	70.0	75.0
町正答率	73.5	71.1	72.4	71.2	73.5	73.8
校内正答率	72.6	70.5	70.6	70.6	73.6	71.8

	計	基礎	活用	
			思考判断力	表現力
期待正答率	71.2	74.4	56.0	60.0
町正答率	73.5	76.2	60.5	64.2
校内正答率	72.6	75.1	60.6	65.5

- ①漢字小テスト……漢字の「書き取り」小テストを実施する。漢字検証テストにもつなげる。基本的な漢字の読み書きを通し、語彙の獲得や言語に対する関心を高める。
- ②音読の推進……古文をはじめ詩や小説の冒頭などの名文を朗読し暗唱する。音読を通し脳の活性化を図り話す能力の育成を図る。
- ③コラム学習……新聞のコラムに対する意見をまとめ発表し、発表者が司会となりフリートークを行う。自由に意見交換することで自分の意見を正確に伝える力や生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。
- ④聞き取りテスト…教師の朗読に対する簡単な聞き取りテストを実施し、聞く能力の育成とメモを効果的に活用する訓練の場とする。
- ⑤硬筆……硬筆習字練習ノートに文字を丁寧に書き、美しく整った文字を書く力を高める。

【授業の改善】

第1に「話す・聞く」についての取り組みですが、本校重点の「コラム学習」の一層の充実を図り、代表者の発表の内容の充実とフリートーキングの円滑な進行に力を入れ、上手くできなかった場合は「やり直し」をすることで、「自分の意見が相手にしっかり伝わるよう発表できる」ことに力を入れました。また、自分の作品の発表会や、「ショーアンドテル」を実施する等の「発表する機会」を増やしました。「ショーアンドテル」は生徒の相互評価で評価し、班代表の学級発表会や、学級代表の学年発表会を実施するなど「わかりやすい発表」を聞く機会も増やしました。学年朝会が絶好の機会になりました。

さらに、本校重点の「聞き取りテスト」も継続して実施し、定期テストでも「授業での聞き取りテスト」や「コラム」、「古典教材」を中心に「聞き取り問題」を必ず実施しました。特にメモを取ることを奨励しました。

次に「言語事項」の取り組みです。本校では「漢字検証テスト」を年2回実施しています。そこで、1年生では2回の実施がありますが、それぞれの回で、全員合格するまで再テストを繰り返しました。生徒たちの漢字に対する関心が自然と高まり、本校重点の「漢字小テスト」の平均点も上昇していきました。さらに、定期テストにも漢字の読み書きの範囲としても含めました。1つの課題が「小テスト」→「検証テスト」→「定期テスト」

と3回復習確認できることは、学習の高い定着率につながりました。特に、書き取りでは教師が必ず採点し、「とめ」「はね」も丁寧に指導し、まちがいがやすい漢字は黒板を使って大きく拡大して指導するなどしました。

最後に「書く」についての取り組みです。「コラム学習」で自分の考えをまとめる時間を5分から7分に延長し、時間の確保をしました。また、作文を書く時間を授業の中でも増やし、行事の度に文集を作り全員提出させることで、原稿用紙の使い方のような基本的なことから、効果的な書き出しのような応用分野まで指導していきました。特に学活の時間などでも感想文を書いてもらうなど生徒の「書く活動」を学年の中で増やしていきました。さらに、単元の最後で創作文や感想文など作らせる活動を多く取り入れ、全員に提出させ掲示することで、生徒全体の能力向上を図りました。

【資料2】24年度埼玉県小・中学校学習状況調査結果(2年生国語24年4月24実施)

	関心意欲態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解技能	短答式	記述式
県正答率	75.1	84.8	72.1	69.6	79.6	72.1	57.8
町正答率	76.3	84.8	73.2	69.9	82.7	74.7	63.2
校内正答率	77.8	88.5	76.5	71.6	83.3	74.9	64.2

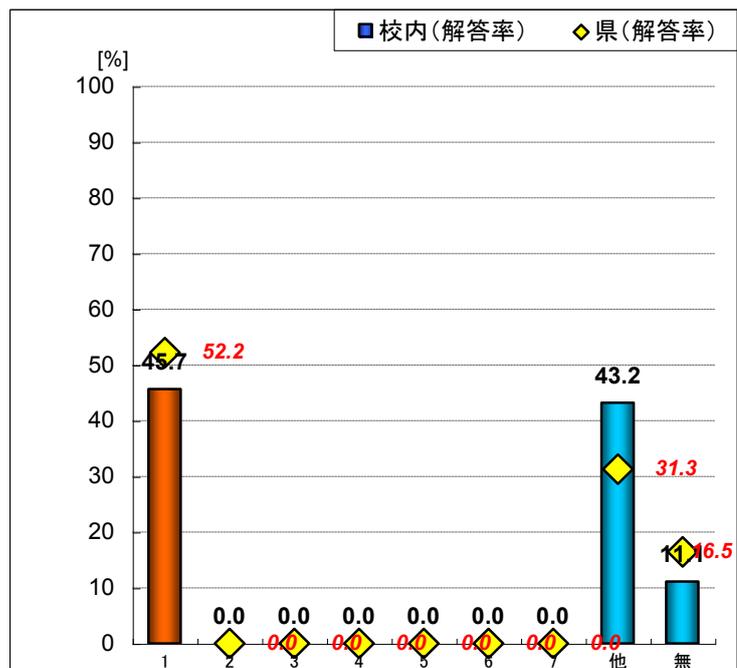
【成果】

これらの取り組みを通し、素直な性格の生徒が多いこともあり、少しずつ生徒の能力は高まっていったように感じました。また、関心意欲の向上にも自然とつながったようです。

今年度の埼玉県学習状況調査では、全ての項目で、「県の正答率や」「町の正答率」を上回ることができました。特に記述式の問題では空欄率が全ての問題で(県の正答率の方が高い問題に対しても)県の空欄率を下回ったのは、生徒の高い取り組み意欲の現れであると考えられます。次表参照。

〈出題のねらい〉
文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。
 解答類型(正答をオレンジ色で表示)

【注釈】グラフの見方
 グラフ中の1の項目がこの問題の正答率を表す。従って県の正答率は52.2%、本校の正答率は、45.7%であることを表し、県の方が良かった。
 また、グラフ中の他の項目が問題の誤答率を表す。従って県の誤答率は31.3%、本校の誤答率は43.2%であることを表す。
 さらにグラフ中の無の項目が問題の空欄率を表す。従って県の空欄率は16.5%、本校の正答率は11.1%であることを表し本校の方が良かった。
 本校の正答率が県の正答率を上回った残りの7問については、全て空欄率は下回る結果が出た。



【今後の課題】

前年度と比較すると好結果が出ましたが、国語だけでなく他の教科(特に理科・社会)と比べるとまだまだ「本校国語」の伸びしろは、かなりあります。そこで、今までの取り組みを継続して進めるとともに、更に学年行事や学校行事とリンクしながら、生徒の「話す聞く能力」「書く能力」「言語事項能力」を高めていきたいと考えます。

また、上のグラフで利用した「学習支援プログラム」等の分析は生徒に直接反映されるものです。これらの結果を更に吟味して、生徒の現状をしっかりと押さえた上での「攻め」の国語授業活動を展開しなければならないと考えています。